

Title	演劇学研究室蔵『森本薫関係資料』
Author(s)	中尾, 薫
Citation	演劇学論叢. 2015, 14, p. 164-183
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/97433
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

演劇学研究室蔵『森本薫関係資料』目録

中尾 薫

演劇学研究室蔵『森本薫関係資料』目録

中尾 薫

森本薫（一九二一—一九四六）は、明治四十五年（一九二二）、大阪府西成郡中津町生まれの、日本の新劇界を代表する劇作家である。三高、京都帝国大学文学部英文科在学中は、演劇研究者として名高い山本修二の薫陶をうけ、二十三歳のときに発表した戯曲「わが家」「みごとな女」により、一躍劇壇に注目された。後者は、文学座第一回公演として上演され、その後も雑誌「劇作」の同人として「華々しき一族」など、次々と新作戯曲を発表した。一方、ソートン・ワイルダーの「我が町」等の翻訳、ラジオドラマ、映画脚本、『富島松五郎伝―無法松の一生』の脚色など多様な仕事をこなし、日本の新劇界を担う新進気鋭の戯曲家として重用される。一九四〇年に若田豊雄に推されてかねてより縁の深かった文学座に入座。名優杉村春子と恋愛関係にあつたことはあまりにも有名である。一九四五年、代表作となる『女の一生』が、空襲警報の鳴り響くさなかに初演されたが、薫はすでに病の床にあり、翌年享年三十四にてこの世を去った。

平成二十年十二月、森本薫のご長男である森本年氏より、演劇学研究室へ、森本薫関連資料を一括してご寄贈いただいたことは、本誌十号彙報欄にて、すでに報告した通りであるが、その全様について報告する時期を逸していた。以下に、甚だ不十分ながら、その目録を示し、森本薫の遺品のみならず、『女の一生』の上演史を知る資料など、薫

の足跡を知る甚大な資料を収集・保管され、本研究室に寄贈くださつた森本年氏のご厚意に、あらためて謝意を表したい。

なお、同資料は、現在、大阪大学総合博物館に寄託、保管されてい

A 森本薫遺品

森本薫のトレードマークともいふべきロイド眼鏡のほか、京都大学時代の写真、妻和歌子への贈答品、プライベートのスナップ写真、家族写真、自筆書簡等、森本薫が直接所有していたと推測される資料群を分類した。

1 森本薫直筆書簡（11通）

西村博子氏「森本薫未発表書簡」（本目録14）に（1）～（9）の全文、（10）の一部が翻刻されている。

- （1）和歌子夫人宛「まだ生きてゐる…」一九四四年暮れ頃（封筒なし）。
- （2）和歌子夫人宛「手紙見た…」（封筒入）（3）和歌子夫人宛「その後どうしてゐるのだ。…」一九四五年（文学座の封筒入）（4）和歌子夫人宛「十五日に出した速達…」一九四五年三月二十一日（封筒入）（5）

和歌子夫人宛「今日清子からの速達で…」一九四五年『女の一生』初演前頃(封筒なし)(6)和歌子夫人宛「二十四日、二十七日付の手紙:」(封筒入)(7)和歌子夫人宛「その後どうしてゐる:」(封筒入)(8)和歌子夫人宛「その後どうだ:」(封筒入)(9)「とうくソ連も」(封筒は別のもので中川忠彦様宛宛先不明で女優に宛てたと西村氏が推定されている(10)「京都市下京区柳馬場仏光寺下ル林精一様方森本薫様」宛、「岩城にて 渋谷實」差出。松竹株式会社大船撮影所封筒・便箋。「このごろの大変な暑さに、お加減いかがと案じて居ます。流石が広東仕込みの私も閉口してどこへも行かず、その上根つからの無性が磨きをかけてなんにもせずにグツツしています。会社が余り:」。(11)山本先生宛書簡草稿「ご無沙汰してゐます。その後お変わりございませんでせうか、奥様や皆さんも如何お暮しでせうか、どうも世の中がすっかり騒がしくなつてしまつて 東京も まるで変わつてしまひました。僕の方も 小劇場は三月九日に焼けてしまひましたし 当分まあ芝居も出来さうにないので四五日中に京都へ引上げ暫らく状勢をみようとと思つてゐます、三月二十日からのつもりで準備中でした。拙作「女の一生」五幕七場は四月十一日から十六日迄渋谷の東横劇場で開演 十二、(十三) 十四、十五(十五)と三回の大空襲の中でしたが十四日 一日休場の五日間で六千人の観客を動員出来ました、その時の写真一葉お目にかけます 何れ近々お伺ひして 戦中戦後の芝居について又いろいろお話伺ひたいとのしみにしてゐますが 森本薫山本先生侍史」(慶応義塾便箋 薫の師山本修二宛て書簡の草稿と推定される。

3 万年筆
2 ロイド眼鏡

4 薫使用緑色ペイズリー柄ストール
5 薫使用紺色兵子帯

6 昭和八年撮影、京都大学同窓生集合写真
写真「昭和八年一月(一九三三) 吉田山々上にて(背景 京都大学)」、裏に人物説明書きがあり、中央が森本薫。

7 昭和十年春頃三高演劇映画研究会「築地座をかこむ会」集合写真
青山光二、織田作之助、菅泰男、森本薫(京大生)、古松定一先生、山本修二先生、友田恭助、田村秋子、堀越節子、杉村春子、森六郎先生、下村定一。築地座京都公演での集合写真。川口一郎「二十六番館」等を上演した。

8 片山正雄「双解独和大辞典」(南江堂発行、一九二七年 薫使用か。

9 『岩波 哲学小辞典』(岩波書店、一九二七年 森本印。薫使用か。

10 森本薫プライベート写真

(1)肖像写真(2枚)(2)結婚式写真(3)森本薫スナップ写真(12(2)(5)(8)(9)と三高時代とおぼしき写真、山本修二の子らとの写真の計6枚。

11 和歌子夫人所持「帯留」

薫が妻和歌子に贈った帯留め二種(七宝焼六角帯留、緑色陶製帯留)。

12 第三回毎日演劇賞賞状

脚本賞。昭和25年文学座初演「華々しき一族」の脚本に対して。昭和二十六年、毎日新聞社。

B 追悼関係

1 文学座「忌辞」

一卷。「謹んで森本薫氏のご逝去に対し衷心より哀悼の意を表し奉り候。氏の御他界に際し御近親の御悲歎は拝察に余り候へ共我々一同にとりても希望に燃えて我々の未来を夢想いたすに常に森本氏の存在無くしては思ひ及ばず代へ難き同志と頼み居りしに、今御訃音に接し茫然思慮を失ひ唯痛恨に咽ぶのみに御座候。文学座創設以来氏の戯曲、脚色上演は毎に新劇界に清新の気を導入し氏を独り得ることの文学座の誇りとさへ存居候為に氏に期待いたす処余りに多く氏の不健康の折さへ屢々強請して作を依頼し今にして思へば万一之が氏の再起を不能ならしめた一因とも相成候様ならば、御遺族に対し見えん顔無之我々といたしても終生の恨事と痛感致居候。御葬儀に参列叶はざる我々といたし改めて東京にて文学座中心に氏の御友人を御招ざれり何らかの形にて告別を兼ね追悼会を催したく唯今計画中にて日取其他決定の折は改めて御報告申上可く候へば御遺族の御上京御列席も御願ひ申上度存居候。とりあえず紙上を以て遙かに畏友同志森本薫氏の御冥福を衷心より祈り上げ候。敬白 昭和廿一年十月十五日 文学座一同 拝 遺族様侍史 三津田健 宮口精二 青野太郎 中村信誠 森田混 中村伸郎 高原駿雄 龍岡晋 戌井市郎 杉村春子 賀原夏子 南美江 新田瑛子 宮内順子 菅文代 丹阿弥谷津子 國分洋一 文野朋子」。

2 薫追悼書簡および新聞記事等スクラップ帳
林幸代、森本和歌子夫人宛の哀悼文・書簡、新聞記事を貼付けた留帳。岸田國士直筆哀悼文、岩田豊雄、岩田静、大江良太郎、尾崎幸雄、山本亮の書簡。昭和二十一年十二月一日、徳正寺における「森本薫君追悼の夕」参加者の寄せ書き、山本修二、戌井市郎、田中千禾夫、杉村春子ら計二十名。久保田万太郎追悼句、山本修二「森本薫と」女の一

生」原稿（十二月七日放送）、「忌辞」（旧「劇作」同人代表菅原卓）、「忌辞」（日本放送協会演藝部代表坂本朝二）、林幸代日記（十一月八日母校三高記念祭における、劇研主催の遺品展覧会の事等。十一月二十六日東京築地本願寺文学座主催追悼会出席の事、十二月拾日大阪毎日会館森本薫追悼会に出席の事（入場券添付）、「文学座」一九四六年十一月紙面（山本修二「文学座の関西公演」、中川龍一「演劇にさされた生涯」文学座と森本薫）、雑誌「劇場」（一九四六年十二月号、岩田豊雄「森本薫」掲載）、「毎日会館」（一九四六年十二月、山本修二「演劇に献けた一生」劇作家森本薫君一）他、「帝劇芸術祭パンフレット」（No.12）森本薫追悼記事、「名宝劇場パンフレット」No.8（林口「怒濤」とその作者）、「京都新聞」（夕刊、一九四六年十月十三日、山本修二「演劇に献けた一生」劇作家森本薫君一）、「京都新聞」（夕刊、一九四六年十二月二日、田口竹男「演劇作家の悲哀」掲載（同記事が二つ）、「毎日新聞」一九四六年十二月五日、山本修二「森本薫と文学座」女の一「公演に際し」、「京都新聞」（夕刊、一九四六年十二月五日、菅泰男「文学座。女の一」）、『都新聞』（一九四六年十二月七日、「会話のうつくしい劇 杉村春子の追慕的努力を賞ふ」）、『新大阪新聞』（一九四六年十二月十三日、辻久一「森本薫のこと」）、『毎日新聞』（一九四六年十二月十六日、寿岳文章「女の一生」を見て）、『京都新聞』（夕刊、一九四六年十二月十七日、田口竹男「新劇の面白さ」文学座」公演後に一）。

3 文学座座員による森本薫墓参り写真（於京都誓願寺）
4 追悼会でのスナップおよび集合写真らしき写真（2枚）

C 森本薫関連台本

1 森本薫直筆台本「むかしの歌」

紀伊国屋製、緑色罫線原稿用紙。推敲跡あり。

2 『陳夫人』 上演台本

庄司総一作、森本薫・田中澄江共同脚色、久保田万太郎演出、伊藤寿一装置。内表紙に「新生新派、昭和十六年八月興行台本／文学座（在野劇作家有志会）」四月公演台本より改行」と書き入れあり。

3 『神風特別攻撃隊』（松竹映画大船作品） 上映台本

海老原靖兄企画、森本薫脚本、木下恵介演出。松竹大船撮影所脚本部。役者名など書き入れあり。一九四四年頃執筆らしい。自筆書簡（A）に映画化中止についての言及あり。

4 映画『誓ひの港』（松竹映画大船作品） 脚本

一九四二年六月、神崎武雄原作（オール読物所載「信箋」より）、森本薫脚色、大庭秀雄演出、寺尾清撮影。

5 『新しき日』（決定稿） 上映台本

松竹映画大船作品、「脚本森本、演出大延秀雄演出の予定なりしも機関にて中止」と鉛筆書。一九四二年十月。

6 『大曾根家の扉』（松竹作品） 上映台本

鉛筆で印刷題字「扉ひらく」を消し、「本庄家の扉」。さらにそれを消し「大曾根家の扉」と記す。一九四六年二月公開『大曾根家の朝』（木下恵介監督、杉村春子主演）のオリジナル脚本か。ただし薫の名はクレジツトされていない。

7 『或る女』 上演台本

有島武郎作、久保田万太郎脚色。表紙に「芸術祭参加創作劇脚本」と印字、「森本薫様」と書き入れあり。一九四六年十月、帝国劇場上演台本か。

D 森本薫戯曲集、全集等

1 森本薫『女の一生』（一九四六年、文明社）

意に反して国策劇として執筆せざるを得なかった初演版を、病床で作成したと伝えられる戦後版に基づく本文。薫の長女林幸代氏所持。

2 戯作選書Ⅰ『青春』（一九四八年、世界文学社）

森本薫『一家風』掲載。寄贈本。

3 森本薫戯曲集ⅠⅡⅢ（一九四七年～一九四八年、世界文学社）

Ⅰ『華々しき一族』…『華々しき一族』「かくて新年は」「わが家」「みごとな女」「かどで」掲載。一九四七年。Ⅱ『女の一生』…『退屈な時間』『衣裳』『怒濤』『女の一生』『新稿女の一生』（文学座上演脚本）掲載。一九四八年。Ⅲ『富島松五郎伝』…『富島松五郎伝』ラジオドラマ『薔薇』『記念』『生まれた土地』…『無題（未発表）』掲載。一九四八年。Ⅳは、四冊あり。

4 『森本薫全集』巻一巻二巻三巻（世界文学社）

一卷…『華々しき一族』「かくて新年は」「わが家」「みごとな女」「かどで」「一家風」「赦せない行為」掲載。一九五二年。二巻…『退屈な時間』『衣裳』『怒濤』『女の一生』『新稿女の一生』（文学座上演脚本）掲載。成井市郎『女の一生』初演台本について、一九五二年。三巻…脚色「富島松五郎伝」、ラジオ・ドラマ『薔薇』『記念』『生まれた土地』、シナリオ『むかしの歌』『無題（未発表）』掲載。一九五三年。二冊あり。

5 森本薫ラジオドラマ選集（カバーなし）（一九五一年、宝文館）

『生まれた土地』『薔薇』『時間について』『ベンゲット道路』『踊り』記

念』『孟姜女』『大川仇討』『夜間飛行』掲載。解説堀江史朗、放送記録。

6 岩田豊雄編『日本現代戯曲集IV』（一九五一年初版、新潮文庫、新潮社）

森本薫『華々しき一族』所収。

7 『新選現代戯曲全集』1～5巻（一九五二～一九五三年、河出書房）

第三巻に森本薫『衣裳』掲載。

8 『森本薫全集』1～3（一九五二～一九五三年、世界文学社）

9 『舞台文庫2』（演出青山杉作、創元社、一九五四年初版 ※三版とは異装。）

10 『未来劇場』第十二巻（一九五五年、未来社）

森本薫『みごとな女』（34巻）掲載。田中澄江『赤いざくら』（35巻）、

水木洋子原作、神津鬼生脚色『また逢う日まで』（36巻）と一緒に箱入。

11 昭和文学全集第二十四巻『昭和戯曲集』（一九五七年、角川出版）

森本薫『かじで』所収。

12 『舞台文庫2』（演出青山杉作、一九五四年初版、一九五八年三版、創元社）

森本薫『みごとな女』所収。二冊あり。（カバーあり、なし。カバーあり
の方の末頁に「森本亮」印）

13 『現代日本文学大系』83（一九六〇年初版、筑摩書房）

森本薫『みごとな女』『華々しき一族』『女の一生』所収。

14 『女の一生』（角川文庫657、一九五四年初版、一九六一年九版）

15 『未来劇場』No.34（一九五五年初版、一九七七年十一版、未来出版社）

森本薫『みごとな女』所収、田中千禾夫演出ノート。

16 名作舞台シリーズ『女の一生』上演台本（一九八九年、ぬ利彦出版）

文学座上演台本、戌井市郎補訂・演出。

E 『女の一生』上演資料

『女の一生』は、文学座の名優・杉村春子の主演により、計九九四回上演された。その後平淑恵に継承され、今なお、文学座の不朽の名作として上演が重ねられている。ここでは『女の一生』の上演資料（チラシ、ポスター、パンフレット、プログラム等）を分類した。なお、解題に示した丸数字は、藤木宏幸『資料』『女の一生』資料・証言集』（シアターアーツ、一九九六年六月）の「25『女の一生』上演記録」に付された上演順番号と一致する。

〈文学座〉

1 『女の一生』初演チラシ

ガリ版刷。一九四五年四月十一日～十五日、於東横映画劇場。①

2 文学座関西公演『女の一生』パンフレット

森本薫追悼、久保田万太郎演出、戌井市郎演出助手、伊藤喜朔装置。

一九四六年十一月三十日～十二月一日、於京都・華頂会館、十二月五

日～八日、於名古屋・名宝文化劇場、十二月十一日～十六日、於大阪・

毎日会館。「文学座上演目録」（自昭和十三年三月至昭和二十一年十二月、

菅泰男「森本薫と日本の新劇」も掲載。②

3 文学座京都第一公演『女の一生』ポスター

二枚あり。「奇才森本薫追悼公演」、一九四六年十一月三十日～十二月

一日、於華頂会館。戌井市郎補訂版にて上演。②

4 文学座名古屋公演『女の一生』パンフレット／『名宝文化劇場』（No.4

一九四六年十二月五日～八日。於名宝文化劇場。②

5 文学座九州初公演『女の一生』ポスター

二枚あり（一枚に掲示許可印）。一九四七年六月三十日～七日一日、於福岡劇場、主催在外同胞援護会。③

6 文学座九州初公演『女の一生』ポスター

前掲とは別のデザイン。福岡公演以外に、長崎公演（七月三、四日）の日程入り、佐世保、熊本、小倉公演の欄もあるが、日程は空欄のまま。

③

7 文学座第一回九州公演『女の一生』パンフレット

森本薫作、久保田万太郎演出、伊藤喜朔装置。一九四七年。森本薫作品一覽あり。③

8 文学座第32回公演『女の一生』パンフレット

森本薫追悼公演。久保田万太郎演出、戌井市郎演出助手、伊藤喜朔装置。一九四七年八月、於日本橋・三越劇場。森本薫作品及び年譜あり。

④

9 文学座公演『女の一生』パンフレット

杉村春子藝術院受賞記念公演、一九四八年十二月十八日～二十九日、於三越劇場。⑧

10 文学座公演『女の一生』プログラム／『毎日マンスリー』No.40

二冊あり。一九五二年十月発行、一九五二年十月五日～九日、於大阪毎日会館、一九五二年十月十日～十一日、於京都・弥栄会館。久保田万太郎演出、戌井市郎演出助手、伊藤喜朔装置。⑭

11 文学座慈善公演『女の一生』プログラム

戌井市郎演出。初演台本に基づく戌井市郎改訂版による上演。一九五四年一月五日～十二日、於第一生命ホール。⑮

12 文学座一月本公演、文学座創立二十五周年纪念公演『女の一生』公

演プログラム

戌井市郎脚色、久保田万太郎・戌井市郎演出。一九六一年一月六日～二十四日、於日比谷・第一生命ホール。⑮

13 『女の一生』上演台本

森本薫原作、戌井市郎改訂、久保田万太郎・戌井市郎演出、古賀宏一装置。

14 文学座公演『女の一生』プログラム

一九六三年四月二十九日（建）、二十日（四日市）、五月二日（田辺）、四日（福山）、五日（三原）、六日（宇都）、七日（北九州）、八日（福岡）、十日（広島）、十三日（高松）、十五日（米子）、十七日（豊橋）。⑯

15 文学座公演『女の一生』パンフレット

大阪芸術祭参加作品。一九六八年五月二十二日～二十三日、於大阪・毎日ホール。⑰

16 文学座公演『女の一生』パンフレット

二冊あり。一九七三年十二月六日～二十七日、於渋谷・東横劇場。⑱

17 文学座付属演劇研究所（前期夜間部）発表会『女の一生』パンフレット

一九八一年十二月十二日、於文学座アトリエ、戌井市郎演出。

18 文学座公演『女の一生』パンフレット

一九八三年十二月五日～二十三日、於渋谷・東横劇場。

19 文学座公演『女の一生』プログラム

戌井市郎演出、古賀宏一装置、杉村春子主演。一九八九年、三月二日～四月二十九日、地方公演。

20 朝日新聞（夕刊）切り抜き「ニッポンメロドラマの原点―5年ぶりの杉村春子『女の一生』」（一九八九年三月十日）

- 21 『ちゃいむ』(Vol.355) (一九八九年三月、劇団文学座発行)
 「女の一生」地方公演へ」戌井市郎「女の一生」上演史(抄)」「第
 2回上演台本の変遷(その2)」他。
- 22 文学座第268回公演『女の一生』プログラム
 森本薫没後五十年。補訂・演出戌井市郎。一九九六年八月三十日〜九
 月十一日、於三越劇場。本公演より布引けい役を平淑恵が継承。初演
 台本版による上演。
- 23 文学座第268回公演『女の一生』チラシ
 森本薫没後五十年、戌井市郎演出、中島正留装置、一九九六年九月十
 三日〜十五日、於シアター・ドラマシティ。
- 24 文学座創立六十周年記念公演『女の一生』プログラム
 戌井市郎演出・補訂。地方公演。一九九七年四月二十七日〜六月二十
 日。
- 25 文学座創立六十周年記念テレフォンカード
 一九九七年。題字「文学座創立六十周年記念」は杉村春子筆を印字し
 たもの。
- 26 文学座公演『女の一生』プログラム
 一九九九年二月十一日〜二十二日俳優座劇場。戌井市郎演出、中嶋正
 留装置。
- 27 文学座通信Vol.474 (一九九九年二月、劇団文学座発行)
 28 大入り袋『女の一生』一千回祝
 一九九九年十一月二十日、文学座。森本年様宛。
- 〈文学座以外〉
- 29 北陸新協第十八回公演『女の一生』ポスター
 加須屋信政演出、長谷川一多装置、六月二十七、二十八、二十九日、
 於尾山クラブ。
- 30 『北陸新協会』第九号、一九四七年六月二十五日
 第十八回公演『女の一生』特集。友田恭助の記事もあり。
- 31 新聞記事切り抜き「岡田嘉子さんが演出」『女の一生』ソ連で好評」
 32 新聞記事切り抜き「モスクワで晴れの演出 森本薫原作 岡田嘉
 子さん卒業公演」
 「モスクワルチャル国立演劇大学演出科で五年間みっちり勉強してき
 た岡田嘉子さんの卒業公演が……」。
- 33 新聞記事切り抜き「在ソの岡田嘉子さん日本の劇を初演出 一流
 の俳優使い 新劇界、衣装も送り応援」〔毎日新聞〕一九五九年三月
 十一日。
- 34 新聞記事切り抜き(東京タイムズ)一九五九年六月二十五日
 35 新聞記事切り抜き「岡田嘉子「女の一生」を演出して、大それ
 た願いがかなう まだ多い直したいところ」
 36 新聞記事切り抜き「女の一生」演出に打込む 公演前の岡田嘉子
 の近況 モスクワの顔役 日本から小道具も到着」〔産経新聞〕一
 九五九年五月十一日
- 37 岡田嘉子演出ロシア公演ポスター(関係者のサイン入り)
 38 大阪放送劇団第三十九回公演『女の一生』チラシ
 大阪新劇フェスティバル参加、端田宏三演出、板坂晋治美術、一九九
 五年十一月九〜十日、於テイジンホール。
- 39 大阪放送劇団第三十九回公演『女の一生』パンフレット
 大阪新劇フェスティバル参加、端田宏三演出、板坂晋治美術、一九九
 五年十一月九日〜十日、於テイジンホール。

〈TVドラマ〉

40 銀河テレビ小説『女の一生』第一回〜第五回NHKTV放送台本
(連続二十回)

一九七七年六月二十七日〜七月一日(21:40〜22:00)放送、再放送一九七七年六月二十八日〜七月四日(13:05〜13:25)、森本薫原作、茂木草介脚色、池辺晋一郎音楽、平原日出夫制作、松井恒男演出、布引けい役・櫻山文枝(劇団民芸)。

41 銀河テレビ小説『女の一生』第六回〜第十回NHKTV放送台本
(連続二十回)

一九七七年七月四日〜八日(21:40〜22:00)放送、再放送一九七七年七月五日〜十一日(13:05〜13:25)放送。

42 銀河テレビ小説『女の一生』第十一回〜第十五回NHKTV放送台本
(連続二十回)

一九七七年七月十一日〜十五日(21:40〜22:00)放送、再放送一九七七年七月十二日〜十八日(13:05〜13:25)放送。

43 銀河テレビ小説『女の一生』第十六回〜第二十回NHKTV放送台本
(連続二十回)

一九七七年七月十八日〜二十二日(21:40〜22:00)放送、再放送一九七七年七月十九日〜二十五日(13:05〜13:25)放送。

44 森永劇場『女の一生』録音オーディオテープ

F 森本薫作品(『女の一生』以外)上演資料

1 文学座第2回名古屋公演『怒濤』パンフレット／『文学座』(No.8)

於…名宝文化劇場、森本薫作、一九四七年三月六日〜十二日。

2 文学座第36回公演『わが町』パンフレット

ソートン・ワイルダー作、森本薫訳、菅原卓演出。一九四八年六月四日〜十日、於日劇小劇場。

3 文学座関西公演『わが町』プログラム／『毎日マンスリー』(第15集)

長岡輝子演出。一九四九年五月十九日〜二十五日、於大阪毎日会館。一九四九年五月発行、『わが町』特集。

4 文学座第42回公演『華々しき一族』『出来ごころ』プログラム『華々しき一族』戌井市郎演出。『出来心』プロスペール・メリメ作、鬼頭哲人訳、長岡輝子演出、三林亮太郎美術。一九五〇年五月三日〜二十四日、於三越劇場。

5 文学座関西第33回公演『富嶋松五郎伝』プログラム／『毎日マンスリー』(No.48)

一九五三年九月発行。一九五三年九月二十五日〜三十日、於大阪・毎日会館、十月一日〜二日、於京都弥栄会館)戌井市郎演出、伊藤嘉朔装置。

6 文学座新春慈善公演『大寺学校』『華々しき一族』プログラム／『毎日マンスリー』(No.73)

二冊あり。『大寺学校』…久保田万太郎作・演出、伊藤嘉朔装置。『華々しき一族』…森本薫作、戌井市郎演出、松山崇装置。一九五七年一月発行。

7 文学座新春慈善公演パンフレット

一九五七年一月五日〜二十四日、文学座第4回慈善公演。『思い出を売る男』(二号)『大寺学校』『華々しき一族』上演。

8 文学座第4回慈善公演『思い出を売る男』『二号』『大寺学校』『華々しき一族』ポスター

二種(縦長三枚、横長一枚)あり。『二号』『思い出を売る男』一月五日
〜十二日、『大寺学校』『華々しき一族』一月十三日〜二十四日。

9 文学座森本薫没後二〇周年追憶記念公演「かどで」『華々しき一族』プログラム

一九六六年、十一月二十一日〜十二月六日、於新宿・厚生年金会館小ホール。十一月七日、於甲府・山梨県民会館、十一月十八日、於吉原・吉原市民会館。『かどで』加藤新吉演出、松山崇装置。『華々しき一族』戊井市郎、高田一郎装置。

10 文学座第194回公演『雨空』『華々しき一族』パンフレット

『雨空』久保田万太郎作、龍岡晋演出。『華々しき一族』戊井市郎演出、小笠原肇装置、一九八三年四月十三日〜二十一日、於俳優座劇場、五月七日〜二十日、於紀伊国屋ホール。

11 文学座第210回公演『華々しき一族』パンフレット

昭和六十年文化庁芸術祭参加、戊井市郎演出。一九八五年十月二十一日〜二十四日、於国立劇場小劇場。

12 文学座通信 Vol.445 (一九九六年九月一日、劇団文学座発行)

文学座アトリエ特別公演『華々しき一族』特集。一九九六年九月二十八日〜十月十三日、於信濃町・文学座アトリエ。

13 文学座公演『華々しき一族』プログラム

平成六年度文化庁芸術祭参加、戊井市郎演出。藤木宏幸「森本薫と『華々しき一族』」山本峻「森本さんと『華々しき一族』」横溝幸子「華やかなコメディアンぶりー「華々しき一族」の杉村春子さん」戊井市郎「『華々しき一族』の周辺」「華々しき一族」上演記録等。

14 文学座京都公演『華々しき一族』チケット半券
一九九六年十月二十七日、於京都府立文化芸術会館。

〈文学座以外〉

15 『創作劇研究会』2 (俳優座) プログラム

『水泥棒』真船豊作、千田是也演出。『天使捕獲』正宗白鳥作、千田是也演出。『みごとな女』森本薫作、青山杉作演出。一九四八年六月二十八日〜七月三日、於…有楽町・毎日ホール。

16 京都放送劇研究会第一回勉強会『にんじん』『記念』プログラム
『にんじん』ジュール・ルナル作、皆川資雄演出。『記念』森本薫作、皆川資雄演出。一九五〇年二月四日、於京都労働会館。

17 煉瓦座六月公演『殺人の技術』『赦せない行為』プログラム
木下徹作、津田幸夫演出、三島務装置。一九五四年六月七日〜九日、於白木劇場。『赦せない行為』森本薫作、谷香織演出、南寛装置。

18 煉瓦座六月公演『殺人の技術』『赦せない行為』パンフレット
一九五四年六月七日〜九日、於白木劇場。

19 劇団あかしあの会第2回公演『怒濤』パンフレット

森本薫作、児玉勲顕演出、遠藤春生装置、十一月二十一日、於天満屋荻川会館、一九五四年と推定。

20 劇団中芸第11回公演、創立五周年記念『富島松五郎 無法松の一生』プログラム

一九五六年十月二十五日〜三十一日、於日本青年館、薄田研二演出、伊藤嘉朔装置。

21 劇団中芸『無法松の一生』ポスター

一九五七年。岩下俊作原作、森本薫脚色、薄田研二演出、伊藤嘉朔装置。

- 22 劇団中芸「無法松の一生」プログラム
謹呈。薄田研二演出、伊藤嘉朔装置。あいさつ文より一九五八年と推定される。
- 23 新橋演舞場上演台本「富島松五郎伝―無法松の一生―」
岩下俊作演出、森本薫脚色、戌井市郎演出、品川様一美術。一九六四年二月。
- 24 陽春特別公演「十三夜」【無法松の一生】
一九八五年四月四日～二十六日、於中日劇場。
- 25 劇団くるみ座創立四十周年記念・第61回公演「華々しき一族」
二冊あり。京都府文化芸術劇場、森本薫作、北村英三演出、一九八六年十二月五日～七日、於京都府立文化芸術会館。
- 26 新国立劇場「かくて新年は―森本薫の世界―」プログラム
27 新国立劇場「かくて新年は」上演台本
宮田慶子演出。一九九九年十二月公演、於新国立劇場小劇場。
- 28 新国立劇場上演資料集「森本薫の世界」(戌井市郎監修、石川徹郎編、一九九九年十二月、財団法人新国立劇場運営財団発行)
森本薫について書かれた作家・作品論、自筆原稿、杉村春子宛私信、未掲載戯曲「花翳」、年譜、著者目録、初演記録、ラジオドラマ放映記録、シナリオ上映記録等を収録。
- 29 新国立劇場「怒濤―森本薫の世界」プログラム(二〇〇〇年一月)
30 新国立劇場「華々しき一族―森本薫の世界」上演台本
鐘下辰男演出。二〇〇〇年二月～三月公演、於新国立劇場小劇場。
- 31 新国立劇場「華々しき一族―森本薫の世界」プログラム

〈舞台以外〉

- 32 映画「愛人」パンフレット
一九五三年十一月十日公開。東宝。藤本真澄製作、森本薫作「華々しき一族」より。和田夏十、井出俊郎脚本、市川崑監督。
- 33 「東宝スタジオ・メール」(No.175)
市川崑監督「愛人」(「華々しき一族」)クランク開始の記事。東宝撮影所宣伝課発行。
- 34 大阪中央放送局台本「時間について」
一九五二年七月一日、ラジオドラマ作品集。
- 35 テレビドラマ「むかしの歌」上演台本
NHK・TV映画、一九六二年七月二十日企画会承認。
- 36 東芝日曜劇場「花ちりぬ」台本
森本薫作、野上徹夫脚色、ラジオ東京TV制作、東芝提供、放送：一九五九年十月四日(日) 21:30～22:30。
- 37 ダイハツ希望名作劇場第十一回「無法松の一生(後篇)」放映台本二冊あり。一九五七年十一月十日～十六日放送、制作：博報堂ラジオ部。
- 38 OTV映画シリーズ「むかしの歌」放映台本
制作大阪テレビ放送。
- 39 東映「華々しき一族より 愛人」脚本、チラシ
市川崑監督、和田夏十・井出俊郎脚本。チラシは挟み込まれたもの。
- 40 放送台本「(不明)」(第三幕)

G 杉村春子関係

- 1 追悼杉村春子記念レレフォンカード『女の一生』
撮影者・春打頼一、撮影日・平成元年二月三日の舞台写真。
- 2 杉村春子写真展案内はがき
林田和子写真展「メモリー」、女優 杉村春子」。一九九八年五月一
七日、於富士フォトサロン。
- 3 文学座「忍ぶ草」手ぬぐい
杉村春子追悼会で配布された手ぬぐいか。

H 舞台・映画写真

- 1 文学座『女の一生』舞台写真（初演か。7枚）
- 2 文学座『女の一生』舞台写真（1枚）
撮影・映画世界社、早田雄二押印分。
- 3 文学座『女の一生』舞台写真（3枚）
（1）舞台セット、（2）杉村春子扮装写真（2枚）。
- 4 文学座『女の一生』舞台写真（7枚）
一九九〇年六月、於サンシャイン劇場所演分。
- 5 文学座『みごとな女』舞台写真（2枚）
一九三八年三月二十五日～二十六日、於田村町飛行館所演分か。
- 6 文学座『勤王届出』舞台写真（1枚）
一九四三年四月、於国民劇場所演分か。
- 7 文学座『かくて新年は』舞台写真（2枚）

一九四九年十二月二十七日～二十九日、於有楽町・毎日ホール所演分
か。一枚は、写真裏によれば、二幕目・荒木道子、金子信雄。

- 8 劇団煉瓦座『赦せない行為』舞台稽古写真（3枚）
（1）一九五四年六月八日、東京白木劇場に於ける舞台稽古後の『赦
せない行為』関係者一同集合写真、津田（責任者）、下條（責任者）、谷（演
出）、内山（照明）、志賀（弟）、南（装置）、新木（演出助手）、加納（施）、（2）
同日舞台稽古写真（2枚）。
- 9 文学座『退屈な時間』舞台写真（6枚）
一九五二年、もしくは一九五三年所演分か。写真裏の説明によると（1）
第一幕 吉野様袖近三郎之袋をかぶせて廻った方？（2）二幕目 朽
木 君とみのが結婚するところがかりするのがあるよ……のあたり
（3）（4）第一幕（5）三幕のつな子が出る少し前「お車がまいたり
したが……」（6）二幕目の幕切れに近いところ。
- 10 文学座『華々しき一族』（3枚）
比較的古い上演分か。
- 11 文学座『華々しき一族』（3枚）
文学座の制作部より森本年氏に送られた封筒に入った舞台写真。平成
になつてからの舞台とおぼしい。
- 12 作品名不明舞台写真（1枚）
和室の応接室のシーン。
- 13 作品名不明舞台写真（3枚）
洋室応接室のシーン。
- 14 作品名不明舞台写真（1枚）
貧しい民家のシーン。
- 15 作品名不明舞台写真（1枚）

日本髪女性と杉村春子演じる女性のシーン。

16 女優プロマイド写真

杉村春子か。

17 映画『激流』スチール写真(14枚)

一九四四年、松竹大船撮影所。家城巳代治監督、森本薫脚本。出演…小沢栄太郎、丸山定夫、杉村春子、高峰三枝子、葛城文子、斎藤達雄、東山千栄子、東野英治郎、水戸光子。

18 映画『愛人』(華々しき一族)スチール写真(4枚)

I 文学座上演資料

(森本薫以外。薫の次男亮の關係資料を含む)

1 芸術祭文学座公演『或る女』プログラム／『Theater No.12』

有島武郎原作、久保田万太郎脚色、木村莊八考証、里見淳・久保田万太郎、河野国夫装置。一九四六年十月十日～二十九日、於帝国劇場。上演台本あり(Ｃ)。

2 文学座第三回名古屋公演『マリウス・ファニー』パンフレット

マルセル・バニヨル作、永戸俊雄訳、里見淳、松山崇装置。一九四七年五月七日～十四日、於…名宝五階名宝文化劇場。

3 文学座八月公演『娼婦マヤ MAYA』プログラム

シモン・ギャンション作、小松清訳、長岡輝子演出。一九五〇年八月五日～九月三日、於三越劇場。

4 文学座八月第47回公演『シラノ・ド・ベルジュラック』プログラム
ム

二冊あり。エドモン・ロスタン作、辰野隆・鈴木信太郎共訳、長岡輝

子・戌井市郎演出、伊藤嘉朔装置。一九五一年八月八日～九月二日、於三越劇場。

5 『退屈な時間』『長いクリスマス・ディナー』プログラム／『毎日マンスリー』(第39集)

二冊あり。一九五二年九月発行。森本薫七周忌追悼『女の一生』予告あり。一九五三年一月四日～十八日、於第一生命ホールか。

6 文学座第53回公演『退屈な時間』『クリスマス・マスの正餐』プログラム
ム

一九五三年一月四日～十八日、於第一生命ホール。

7 文学座公演『あかぼ頃』上演台本

アンドレ・ルツサン作、鈴木力衛・安藤信敏共訳、岩田豊雄演出。一九五三年十一月。

8 文学座公演『どん底』上演台本

マクシム・ゴーリキイ作、神西清訳、岸田國士演出。一九五四年三月五日～二十八日、於一ツ橋講堂か。書き込みなし。

9 文学座公演『守銭奴』上演台本

モリエール作、鈴木力衛訳、一九五四年九月。

10 文学座関西第39回公演『二宮』プログラム／『毎日マンスリー』(No.56)

飯沢匡作・演出、伊藤嘉朔装置。一九五四年十二月八日・九日、於京都・弥生会館／十二月十一日～二十日、於大阪・毎日会館。一九五四年十二月、毎日会館発行。

11 文学座関西第43回公演『なよたけ』プログラム／『毎日マンスリー』(No.62)

加藤道夫作、芥川比呂志演出。毎日新聞社主催。一九五五年九月二十

五日〜十月二日、於大阪毎日会館。一九五五年九月二十五日、毎日会館発行。

12 文学座創立二十年記念公演2、文学座関西第47回公演『ヤシと女』
プログラム／『毎日マンスリー』(No.69)

飯沢匡作、長岡輝子演出、伊藤嘉朔装置。一九五六年六月十日〜十一日、於京都・弥栄会館。一九五六年六月十二日〜十七日、於大阪・毎日会館。一九五六年六月十日、毎日会館発行。

13 文学座アトリエ公演『作者を探ず六人の登場人物』プログラム
ルイジ・ピランデルオ作、岩田豊雄訳、岩田豊雄・長岡輝子・安堂信也演出。一九五六年七月十日〜十四日、八月十二日。

14 文学座公演『城への招待』上演台本

ジャン・アヌイ作、久保田万太郎演出、鈴木力衛訳。書き入れあり。一九五六年八月三日〜二十六日、於東横ホール。第三回新劇合同公演か。

15 文学座創立二十周年記念公演『肥前風土記』プログラム／『毎日マンスリー』(No.70)

文学座関西第49回公演。毎日新聞社主催。一九五六年十月一日〜七日、於毎日会館。一九五六年十月一日、毎日会館発行。舞台アルバム(頁4〜5頁)に、加藤武等文学座座員十七名分の直筆サインあり。

16 文学座第72回公演『お月様のジャン』上演台本

マルセル・アシヤール作、長岡輝子訳。一九五七年九月二十五日〜十月十二日、於第一生命ホール。

17 文学座第5回慈善公演『鹿鳴館』ポスター

三島由紀夫作、松浦竹夫演出。一九五八年一月七日〜十五日、於渋谷東横ホール。

18 文学座73回公演『人と狼』上演台本

中村光夫作、福田恒存演出、北川勇装置。一九五八年三月三日〜十五日、於砂防会館ホール。

19 文学座アトリエ公演『リアンヌの気紛れ』上演台本

ミュッセ作、加藤道夫訳、安堂信也演出。一九五八年六月十日〜十八日、於文学座演劇研究所。「モリモト」と署名あり。

20 文学座第6回慈善公演『娼婦マヤ』ポスター

二枚あり。シモン・ギャンション作、小松清訳、長岡輝子訳。一九五九年一月九日〜十八日、於渋谷東横ホール。

21 文学座第78回公演『ニーナ(Nina)』上演台本

アンドレ・ルツサン作、鈴木力衛・和田誠一訳、戌井市郎・安堂信也演出、増山吉彦装置。テキスト変更の書き入れ、表紙に「森本様」と書き入れあり。一九五九年七月十日〜二十日、於東横ホール上演分か。

22 文学座第78回公演『ニーナ(Nina)』ポスター

二枚あり。

23 文学座アトリエ第35回公演『偽りの告白』上演台本

マリヴオー作、鈴木力衛訳、安堂信也演出。一九五九年二月十七日〜二十二日。

24 文学座第77回公演『がらしあ細川夫人』プログラム

文学座三月公演。一九五九年三月六日〜二十四日、於日比谷・第一生命ホール。田中澄江作、田中澄江、田中千禾夫演出。

25 文学座第77回公演『がらしあ細川夫人』ポスター

五枚あり。

26 文学座関西第60回公演『がらしあ細川夫人』プログラム

大阪芸術祭、一九五九年四月十八日〜十九日、二十日〜二十二日、二

十三日～二十五日。

27 文学座アトリエ第36回公演『怒りを込めてふり返れ』上演台本
ジョン・オズボーン作、木村光一訳、松浦竹夫・荒川哲生演出。表紙に「森本用」[Look back in Anger...]の加筆あり。本文に書き込み、作業メモ等あり。森本亮は、舞台監督助手。一九五九年五月九日～十一日、十六日～十八日、於神田一ツ橋講堂上演分。

28 文学座アトリエ第36回公演『怒りを込めてふり返れ!』プログラム

ム

ジョン・オズボーン作、木村光一訳、松浦竹夫・荒川哲生演出。一九五九年五月九日～十一日、十六日～十八日、於神田一ツ橋講堂。国際演劇月参加作品。

29 文学座アトリエ第36回公演『怒りを込めてふり返れ!』ポスター
「五月アトリエ公開公演」

30 文学座アトリエ第36回公演『怒りを込めてふり返れ!』パンフレット

ジョン・オズボーン、木村光一訳、松浦竹夫・荒川哲生演出。六月八日・於京都弥栄会館。六月九日～十日・於大阪毎日ホール。年は推定による。

31 文学座第78回公演『ニーナ』プログラム

文学座七月公演。戌井市郎、安堂信也演出。一九五九年七月十日～二十日、於渋谷・東横ホール。

32 文学座第78回公演『ニーナ』パンフレット

文学座七月公演。アンドレ・ルッサン作、鈴木力衛・和田誠一訳、戌井市郎・安堂信也演出。一九五九年七月十日～二十日、於渋谷・東横ホール。

33 文学座公演『黄色と桃色の夕方』上演台本

矢代静一作。備考・書き込み等なし。一九五九年九月二十六日～十月十二日、於第一生命ホール公演(松浦竹夫演出)の台本と推定される。

34 文学座公演『黄色と桃色の夕方』プログラム／『文学座』一九五九年九月号

矢代静一作、松浦竹夫演出。一九五九年九月二十六日～十月十二日、於日比谷・第一生命ホール。

35 文学座アトリエ上演台本『天国泥棒』上演台本

加藤道夫作、現代狂言、十二月アトリエ公演、書き込みあり。関堂一演出。一九五九年十二月十四日～二十日、於文学座アトリエ上演分。

36 文学座第7回慈善公演『熱帯樹』プログラム

二冊あり。三島由紀夫作、松浦竹夫演出。一九六〇年一月七日～二十八日、於日比谷・第一生命ホール。

37 文学座アトリエ公演『颯』『翁家』上演台本

『颯』真船豊作、戌井市郎・鈴木邦雄演出。一九六〇年三月二十日、於共立講堂。『翁家』一九六〇年八月一日～七日、於文学座アトリエ。「森本亮」印あり。書き入れあり。

38 文学座公演『サロメ』上演台本

三島由紀夫演出、藤野一郎装置。一九六〇年四月五日～十六日、於東横ホール。書き入れあり。森本亮所蔵。手製のブックカバー付。

39 文学座公演『サロメ』プログラム／『文学座』一九六〇年四月号

オスカー・ワイルド作、日夏耿之介訳、三島由紀夫演出。一九六〇年四月五日～四月十六日、於東横ホール。

40 文学座公演関西64回公演『サロメ』パンフレット

一九六〇年四月二十六日～二十八日。

41 文学座関西65回公演『陽気な幽霊』プログラム

一九六〇年七月十六日～十七日、於毎日ホール。七月十八日、弥栄会館。

42 文学座公演『ゴドーを待ちながら』プログラム／『文学座』一九六〇年五月号

サミュエル・ベケット作、安堂信也訳・演出。一九六〇年三月二十四日～三月三十日、於・平河町都市センターホール。編集発行＝文学座編集室。

43 文学座『陽気な幽霊―荒唐無稽なる三幕笑劇―』上演台本

ノエル・カワード作、鳴海四郎訳、戌井市郎演出、伊藤喜朔。一九六〇年六月二十一日～七月九日、於第一生命ホール。備考：表紙に右上に「67」「森本亮」の押印あり、左下に「森本」とペン書き。「森本亮」印は裏表紙、1頁目にもあり。テキスト訂正、舞台装置メモなど多数あり。書き手と推定される森本亮は、舞台監督助手。

44 文学座六月公演『陽気な幽霊』プログラム／『文学座』一九六〇年六月号

ノエル・カワード作、鳴海四郎訳、戌井市郎演出、伊藤喜朔装置。一九六〇年六月二十一日～七月九日、於日比谷・第一生命ホール。裏表紙に「森本様」と書き入れあり。

45 文学座アトリエ公演『雇』上演台本(第二稿)

E・イヨネスコ作、加藤新吉訳、荒川哲生演出、金森馨・藤野級井美術。一九六〇年十月十五日～二十一日、於文学座アトリエ。推敲の書き入れあり。表紙に「文学座公演」とあり。舞台美術に「森本亮」の名。

46 文学座十一月第83回公演『塔』パンフレット

二冊あり。飯沢匡作・演出。第15回芸術祭公演。一九六〇年十一月二十二日～二十六日、二十八日～三十日、十二月三日～七日、九日～十日、於内幸町・イイノホール。

47 文学座公演『似顔絵のひと』パンフレット

一九九〇年十月十六日～十二月十三日、地方公演。平成二年文化庁文化祭参加、江守徹作・演出、朝倉撰美術、杉村春子主演。

48 文学座アトリエの会四十周年記念『THE GREEKS』刺激的悲劇「宣言」／『文学座アトリエの会40年史』

第一部「戦争」(吉川徹演出) 第二部「殺人」(鶴山仁演出) 第三部「神々」(高瀬久男演出) 一九九〇年十一月二十八日～十二月十六日、於文学座アトリエ。

J その他上演資料

1 『昭和二十二年五月興行大歌舞伎』プログラム

一九四七年五月四日初日、於四条兩座。『塩原多助経済鑑』／三人片輪／紙子仕立両面鑑(昼の部)、『奥州安達原／勧善懲悪孝子誉』道行初音鼓／椀久末松山』。

2 俳優座出演公演『たわけた一日あるいはフィガロの結婚』プログラム

ラム
ボオマルシェ作、内藤濯編訳、青山杉作演出。一九四九年十月二十四日～二十五日、於京都公楽会館。俳優座創立五周年記念第十一回公演の地方公演か。

3 俳優座第四回公演『女房学校』プログラム
モリエール作、鈴木力衛訳、千田是也演出、伊藤喜朔装置。一九五〇

年五月五日～八日、於京都寺町四条・労働会館。

4 京都放送劇研究会第2回勉強会『熊』『忘れられぬ人』プログラム

三冊あり。『熊』チエーホフ作、皆川資雄演出。『忘れられぬ人』ラジ
オ・ドラマより。古川良範作、皆川資雄演出。一九五〇年六月十日
～十一日、於京都寺町四条・労働会館。京都放送劇研究会第一回勉強
会で、森本薫『記念』を上演。

5 劇団民芸『ヴェルヘルム・テル』『りんごのおと』プログラム／『民
芸の仲間』第21号

一九五五年四月二十五、二十六日、於弥栄会館。

6 俳優座『夜の来訪者』プログラム／『俳優座』(No.9)(一九五五年
六月二十日発行)

青山杉作演出の再演。ジョン・B・ブリーストーリー作、内山直也翻案。

一九五五年七月二十六日～八月四日、於東横ホール。

7 劇団民芸公演『愛は死をこえて』プログラム／『民芸の仲間』第
24号

レオン・クルツコフスキイ作、鈴木力衛・安堂信也訳、松尾哲次演出。

一九五五年十一月三十日～十二月二日、於京都・弥栄会館。劇団民芸
映画『病妻物語 あやに愛しき』パンフレット一冊と京都文化クラブ
会員募集チラシ一枚が挟み込まれる。

8 劇団民芸『アンネの日記』プログラム／『民芸の仲間』第29号

一九五六年十一月十五日発行。

9 劇団民芸『西の国の人気者』プログラム／『民芸の仲間』第38号

一九五六年五月二十日発行。

10 鈴鳳劇大江美智子一座プログラム

『志警武勇伝』『国の紋太郎』『花頭巾夜』『名月赤城山』『股旅草鞋』『情
姿夫婦』。一九五六年八月七日～二十六日、於四条南座。

11 三十一年度京都演劇コンクールパンフレット

一九五六年九月二十二日～二十三日、於京都高校演劇協会発行。

12 モスクワ芸術座来演ポスター

二枚あり。一九五八年十二月五日～二十一日、於新橋演舞場。

13 劇団三期会創立五周年記念公演・第6回本公演『死者を葬れ』プ
ログラム

アーウィン・ショウ作、熊井宏之演出。一九五九年五月二十日～三十
一日、於俳優座劇場。

14 坪内逍遙生誕百年記念演劇『デュリヤス・シーザー』パンフレッ
ト

一九五九年五月二十六日、早稲田大学記念会堂。

15 俳優座日曜劇場第5回『沢氏の二人娘』パンフレット

岸田國士作、田中千禾夫演出。一九五九年五月三、十、二十四、三十
一日、六月七日、十四日、二十一日、二十八日、七月五日、十二日、
十九日、二十六日、於俳優座劇場。

16 現代座第五回公演『青蠅』パンフレット

マルセル・エーメ作、香西久演出。六月十八日～二十四日、於俳優座
劇場。年不明。一九五九年に第四回公演。

17 札幌市民劇場第二回特別公演『十二夜』

市民文化祭、一九六一年九月二十五日～二十六日、於札幌市民劇場。

〈舞台以外〉

18 水沢草田夫作『細菌学に偉大なる後見をした北里柴三郎』放送台

本

一九五二年九月十四日、NHK。森本薫の「怒濤」が参考資料に使われたか。

K 一般書籍、雑誌

- 1 小山内薫『演劇論叢』上巻(小山内薫著作集第一巻 歌舞伎出版部、一九二七年)
- 2 小山内薫『演出者の手記』(原始社、一九二八年)
- 3 『劇場』Vol.1、(一九四六年一月、演劇文化社)
- 岩田豊雄「森本薫」掲載号。ただし該当頁は切り取られて欠損。
- 4 雑誌『劇作』(世界文学社、一九四七年四月)
- 1、2、3、19、26、90。ただし、90は白水社。2巻に森本薫座談会、山本修二の論考あり。
- 5 『演劇マンスリー』(No.3)(一九五〇年一月)
- 京都新劇団協議会、北知也発行。
- 6 文学座『京都支持会便り』(一九五二年九月、創刊号、文学座京都支持会発行)
- 3全六頁。森本薫特集は七回忌を記念して。「森本薫作品関西上演記録」、下村泰一「発刊の辞に代えて」、山本修二「森本薫とその環境」、菅泰男「退屈な時間」の頃」、井上淳「森本君と私」、西河昇二「雑感」。
- 7 岸田國士『新しき演劇のために』(創元社、創元社文庫、一九五二年初版、一九五三年再版)
- 8 戸板康二『新劇史の人々』(角川新書27、一九五二年初版、一九五四年三版)

9 岩田豊雄『新劇と私』(新潮社、一九五六年初版)

- 一五〜一五四頁に森本薫の記述あり。
- 10 文学座創立二十周年記念『文学座公演年譜』冊子二冊あり。一九五六年十一月、編集北見浩一。森本作品に赤丸印を書き入れる。
- 11 『演劇研究1』(一九五七年十一月、文学座演劇資料室発行)
- 加藤新吉「アルペール・カミユの情熱」木村光一「戯曲紹介、ジョン・オスボン」怒りをこめて振りかえる」について「安藤信也」前公演を顧て「モリエール劇のスタイル」エリック・ベントリイ著「チエホフのドラマトゥルギー」木村光一訳「ワーニヤ伯さん」を巡って
- 12 『演劇研究』1、2、3(一九五七年十二月)
- 13 文学座機関誌毎月一日に発行するパンフレット
- 一九五九年六月(No記載なし、創刊号)、七月(No記載なし)八月(No.3)三冊、九月(No.4)十一月(No.6)二冊、十二月(No.7)一九六〇年四月(No.11)六月(No.13)七月(No.14)八月(No.4)二冊、十一月(No.18)二冊。
- 14 田村秋子、伴田英司『友田恭助のこと』(中央公論事業出版製作、一九七二年)
- 雑誌「悲劇喜劇」連載(計三十二回)の再集録。著者謹呈本。
- 15 『川口二郎戯曲全集』刊行会編『川口二郎戯曲全集』(白水社、一九七二年)
- 川口一郎は、『劇作』同人。明治三十三年(一九〇〇)生まれ。
- 16 『文学座史』(文学座、一九七七年)文学座四十年史、非売品。
- 17 雑誌「悲劇喜劇」No.355、「特集 森本薫」(早川書房、一九八〇年五月)
- 18 『文学座五十年史』(文学座、一九八七年)非売品。

19 雑誌『シアターアーツ』『女の一生』特集号(一九九六年六月)

20 菅泰男『劇と人生』(なにわ塾書61、一九九六年)

なにわ塾講座の記録。第一回講座「私のパーソナル・エッセー」に「森本薫のこと」(二十四―三十頁)。

21 中丸美繪「杉村春子 女優として、女として」(文春文庫、二〇〇五年、文芸春秋)

L 顕彰碑、論考等

1 森本薫年譜

手書き。展示で使用か。

2 森本薫厚紙貼付写真(複写)

(1) 昭和五年北野中学校時代の森本薫肖像写真。ただし、台紙の注意書には「三高時代」とある。(2) 母親(キヌ)、吉川和歌子、薫らのスナップ写真。若狭の羅洞門にて、昭和十二年頃。(3) 築地京都公演集合写真(5) 妻和歌子、友人と薫(6) 妻和歌子、長男年、薫。東京上落合の邸宅にて。(7) 姉幸代と薫、友人。智恩院より祇園に抜ける橋上にて。(8) 薫(三高時代か)と少女。京大時代、山本修二の子とともに芋掘り。(9) 薫(三高時代か)と女性たち。宝塚にて近所の子らと(10) 京都誓願寺の墓所にて文学座座員の墓参り写真(1)と(7)以外は、A11、B3の写真を引き伸ばしたもの。L8に掲載されている写真の拡大版。写真の解説はL8を参照。

3 『六稜昭五会会報』第五号、一九七九年八月発行

4 『六稜会報』No.12(一九七九年九月十五日)

森本薫展の催し案内掲載号、四十三期、昭和五十四年十一月三日母校

において図書館2階。

5 『森本薫展によせて』文集(一九七九年十一月三日)

北野中学校の同窓会六稜昭五会の発行したホツチキス止めの簡易冊子。同窓生のエッセイ等を掲載。

6 『大阪市文学碑』(平成元年十二月、大阪市民局発行)

二、三頁に森本薫文学碑の案内。文学碑は、大阪市北区中津二丁目の中津公演内に建立。「女の一生」の名セリフ「誰が選んでくれたのでもない。自分で選んで歩き出した道ですもの」が刻まれる。

7 森本薫文学碑写真

『大阪市文学碑』の冊子に挟み込まれる。2頁掲載の記念碑写真の原板と思われる。記念碑を撮影した写真。裏に「昭和61年5月19日」のメモ書き。

8 『上方芸能人顕彰』冊子(平成九年、大阪市発行)

顕彰式で配布された冊子か。

9 『森本薫文学碑建立によせて』(北野昭五会)

10 『大阪消防通信』351号(平成二年七月二十八日) 十七―十九頁に「おさか文学散歩(14)」

谷田啓一「中津にある劇作家・森本薫の文学碑(1)―「女の一生」の記録的な公演回数―」352号(平成二年八月二十八日) 谷田啓一「中津にある劇作家・森本薫の文学碑(2)―不運な『未完の大器』の生涯―」(二十一―二十三頁)。

11 谷田啓一「おさか文学散歩(1)」(13) 谷田氏から贈られ たコピー

12 『カレッジそのだ』(一九九四年七月、No.59)

二冊あり。西村博子「これからの女の一生」(七頁)掲載。

13 西村博子「森本和歌子夫人間書き」抜刷（園田学園国文懇話会「国語

語文」第八号、平成六年三月）

14 西村博子「森本薫未発表書簡」抜刷（日本演劇学会紀要 31、一九九三年）

N その他

1 森本薫肖像写真パネル

2 昭和二十四年十二月三十一日付掲載願、中学国語編集会、森本薫宛「先駆者」（森本薫の「怒濤」による。中学国語教科書）

3 昭和八年（一九三三）第二高等学校文甲二卒業寄書写真

4 昭和八年（一九三三）第二高等学校文甲二卒業寄書署名者一覽表寄書に署名した人物のその後を調査した名簿。森本薫の欄には「死」とあり、没後、遺族により調査されたものと思われる。

5 母キ又とおぼしきスナップ写真

6 友田恭助写真（写真裏に自筆あり）

『友田恭助のこと』二九二頁に使用された写真と同じ。同書キャプションには「判田伍長上海郊外にて（戦死2日前）」とある。

7 森本薫肖像写真（拡大版）

8 井尻忠雄氏差し出し、和歌子夫人宛絵はがき

「お違い練習（おぼこ）してみて下さいますか 私は元気で練習□□になっております プろノ分宜しく 木の葉は茜ノ色にならんとしてゐます。八月二十二日在ブラハ井尻忠雄」

9 額入書

「誰が選んでくれたの／でもない自分で選んで歩きだした／道です

もの／静苑かく「朱印」『女の一生』の名セリフの書。

〔注〕

・プログラムは綴じられた冊子、綴じられていない冊子をパンフレットとしている。

・上演資料の年、月、日、公演名等は、資料によっては記載がない場合があるが、目録のために、他の資料から補っている場合がある。

・目録作成にあたり、総合博物館助教の横田洋氏に資料閲覧の便宜をはかっていただいた。また、校正は演劇学研究室助教の須川渡氏が補助くださった。御礼申し上げる。